日本の演奏家

クラシック音楽の1400人

日本のクラシック演奏家1401人の全貌

◇小澤征爾から辻井伸行まで、ピアニスト、ヴァイオリニスト、声楽家、指揮者など、現代のクラシック音楽界を彩る演奏家1267人を本人回答を元に集成した、最新の演奏家人名事典。日本の音楽史を飾る先人134人も併せて収録

◇アンケート項目［プロを志したきっかけ］［好きなレコード・CD］［印象に残る人物、目標とする演奏家］［今後の目標］［代表作品］などから、音楽家の人となりがわかる

◇部門別索引付き

発行／日外アソシエーツ　発売元／紀伊國屋書店　定価 本体16,000円 ＋税

http://www.nichigai.co.jp/

音楽大学大学院〔1986年〕修了　［師］田島好一,布施隆治,伯田好史,鈴木義弘,M.フェラーロ,V.ボローニ　［所属団体］二期会

［経歴］1988年文化庁オペラ研修所第6期生修了。修了公演「アルバート・ヘリング」ではタイトルロールを演じリリックな美声で絶賛を浴びる。同年10月「メリー・ウィドー」のカスカーダ子爵で二期会オペラにデビュー。ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」、バッハ「マタイ受難曲」などのコンサートにも出演。1989年文化庁在外研修員としてイタリア・ミラノに留学。二期会オペラ、新国立劇場オペラなど数多くのオペラ、コンサートに出演し好評を博す。また劇団四季、東宝ミュージカルなどに出演。玉川大学などで後進の指導にあたる他、合唱団の指導にも力を入れている。

小澤 征爾　おざわ・せいじ

指揮者　サイトウ・キネン・フェスティバル松本総監督,新日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者,小澤征爾音楽塾塾長,水戸室内管弦楽団顧問,元・ウィーン国立歌劇場音楽監督

［生年月日］1935年(昭和10年)9月1日

［出生地］旧満州・奉天(瀋陽)　［学歴］桐朋学園短期大学指揮科〔1958年〕卒　［師］斎藤秀雄,レナード・バーンスタイン,ヘルベルト・フォン・カラヤン,シャルル・ミュンシュ　［家族・親族］妻=小澤ベラ(元モデル),長女=小澤征良(エッセイスト),長男=小澤征悦(俳優),父=小澤開作(歯科医),母=小澤さくら(故人),兄=小澤克己(彫刻家),小澤俊夫(筑波大学名誉教授),弟=小澤幹雄(エッセイスト),甥=小沢健二(ミュージシャン)

［受賞歴］ブザンソン国際青年指揮者コンクール第1位〔1959年〕,カラヤン国際指揮者コンクール第1位〔1960年〕,バークシャー音楽祭指揮者コンクール第1位・クーセヴィツキー大賞〔1960年〕,日本芸術院賞(第28回)〔1971年〕,モービル音楽賞(第5回)〔1975年〕,京都音楽賞(第1回)〔1986年〕,朝日賞(1985年度)〔1986年〕,サンフランシスコ大学芸術博士号,国際交流基金賞〔1987年〕,国際文化デザイン大賞〔1987年〕,朝河貫一賞(第1回)〔1992年〕,井上靖文化賞(第1回)〔1993年〕,ザ・シンフォニーホール国際音楽賞大賞〔1994年〕,松本市名誉市民〔1996年〕,レジオン・ド・ヌール勲章シュバリエ章〔1998年〕,ハーバード大学名誉博士号〔2000年〕,ロシア非常事態省功労メダル〔2001年〕,文化功労者〔2001年〕,ルーマニア星勲章〔2002年〕,サントリー音楽賞(第34回,2002年度)〔2003年〕,毎日芸術賞(第44回)〔2003年〕「ピーター・グライムズ」,ソルボンヌ大学名誉博士号〔2004年〕,NHK放送文化賞(第57回)〔2006年〕,文化勲章〔2008年〕,世界文化賞音楽部門(第23回)〔2011年〕　［連絡先］(株)ヴェローザ・ジャパン

［経歴］満州の奉天(現・瀋陽)に生まれ、1歳で北京に移り、6歳まで暮らす。東京・立川国民学校時代に豊増昇にピアノを習い、桐朋学園短期大学で斎藤秀雄に指揮を学ぶ。卒業後の1959年フランスへ留学。同年9月ブザンソン国際青年指揮者コンクールで日本人初の1位となり、翌1960年のカラヤン国際指揮者コンクールでも1位。その後カラヤン、ミュンシュに師事。1960年米国のバークシャー音楽祭指揮者コンクール1位。1961年バーンスタインに招かれ、ニューヨーク・フィルの副指揮者に。1962年NHK交響楽団指揮者。この頃から“世界のオザワ”として活動を開始、シカゴ交響楽団、1965年9月トロント交響楽団の指揮者、1970年12月サンフランシスコ交響楽団の音楽監督となり、1973年9月ボストン交響楽団音楽監督に就任(1992年まで)。1978年には文化革命後初の外国人指揮者として中国に入り、北京中央楽団を指揮。1987年サイトウ・キネン・オーケストラを率いて初の欧米ツアーを実現、大成功を収め、以来2〜3年毎にツアーを行い世界的な評価を得る。1992年からは松本市で“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”を毎年開催、国際音楽祭としての評価を確立した。1995年1月NHK交響楽団と32年ぶりに共演。また1972年以来、新日本フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者も務める。1998年長野五輪開会式では五大陸(ベルリン,シドニー,ニューヨーク,北京,ケープタウン)を結んだ「歓喜の歌」の大合唱の指揮を執った。2000年よりモーツァルトなどのオペラを教材として若手を育成する“小澤征爾音楽塾・オペラプロジェクト”をスタート。2002年1月日本人として初めてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサートを指揮。同年9月ウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任。2010年10月退任。11月名誉団員の称号を授与される。現代音楽とベルリオーズの指揮には定評がある。2001年文化功労者。2008年文化勲章を受章。著書に「ボクの音楽武者修業」など。2010年1月食道がんの手術を受けるが、12月ニューヨークのカーネギーホールでブラームスの交響曲第1番を指揮し復帰。長女の小澤征良はエッセイスト、長男の小澤征悦は俳優として活躍。

小沢 麻由子　おざわ・まゆこ

ピアニスト　沖縄県立芸術大学音楽学部専任講師,尚美学園大学大学院講師

［出生地］神奈川県　［学歴］東京藝術大学〔1999年〕卒,パリ・エコール・ノルマル音楽院〔2002

学。1984年京都市交響楽団コンサートマスターに就任。1993年退団。"宮川彬良&アンサンブル・ベガ"の第1ヴァイオリンを務める。ソリストとして森正、山田一雄、デビッド・シャローン、小林研一郎など多くの指揮者とコンチェルトを協演。日本各地でのリサイタル、FM放送ほか多くの室内楽プロジェクトに参加する。CDに「Jun Tsujii Violin Short Pieces Vol.1—タイースの瞑想曲」「Jun Tsujii Violin Short Pieces Vol.2—モスクワの思い出」「悪魔のトリル」「チゴイネルワイゼン」「無伴奏ソナタとパルティータ」「Testimony in Strings」、小品集「歌の翼に」などがある。神戸女学院大学准教授、愛知県立芸術大学非常勤講師。

辻井 伸行　つじい・のぶゆき

ピアニスト, 作曲家

［生年月日］1988年（昭和63年）9月13日
［本名］辻井伸行　［出生地］東京都　［学歴］東京音楽大学附属高校〔2007年〕卒, 上野学園大学〔2011年〕卒　［師］増山真佐子, 川上昌裕, 横山幸雄, 田部京子, 干野宜大　［家族・親族］母=辻井いつ子（「今日の風、なに色?」の著者）　［受賞歴］全日本盲学生音楽コンクールピアノ部門第1位〔1995年〕, ピティナ・ピアノコンペティション金賞（中学2年までの部, 第23回）〔1999年〕, ショパン国際ピアノコンクール批評家賞〔2005年〕, ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール第1位・ビバリー・テイラー・スミス賞（第13回）〔2009年〕, 日本レコード大賞（特別賞, 第51回）〔2009年〕, ホテルオークラ音楽賞（第11回）〔2010年〕, 岩谷時子賞（第1回）〔2010年〕　［連絡先］エイベックス・クラシックス・インターナショナル
［専門］クラシック音楽の演奏・作曲
［経歴］1988年東京生まれ。1998年、10歳で大阪センチュリー交響楽団と共演しデビュー。2000年9月にはサントリーホール小ホールでソロ・リサイタル・デビュー。2005年10月第15回ショパン国際ピアノコンクール（ワルシャワ）に最年少で参加し、批評家賞を受賞。2009年6月に米国テキサス州フォートワースで行われた第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで日本人として初の優勝を飾った。以来、国際的に目覚しい活動を続け、2011年11月10日にはカーネギーホール主催によるリサイタルが高い評価を受けた。2012年5月ウラディーミル・アシュケナージ指揮、フィルハーモニア管弦楽団の定期演奏会でロンドン・デビュー。2007年10月エイベックス・クラシックスよりCDデビュー。以後、継続的にCDを発表。増山真佐子、川上昌裕、川上ゆかり、横山幸雄、田部京子、干野宜大に師事。2011年3月上野学園大学演奏家コースを卒業。2009年文化庁長官表彰（国際芸術部門）。2010年第11回ホテルオークラ音楽賞及び第1回岩谷時子賞受賞。

辻本 憲一　つじもと・けんいち

トランペット奏者　東京フィルハーモニー交響楽団首席トランペット奏者

［本名］辻本憲一　［学歴］東京藝術大学音楽学部器楽科〔1998年〕卒　［師］野間裕史, 北村源三, 杉木峯夫, 福田善亮, マティアス・ヘフス　［受賞歴］日本音楽コンクールトランペット部門第2位・特別賞（第65回）〔1996年〕, 日本管打楽器コンクールトランペット部門第2位（第13回）〔1996年〕
［連絡先］東京フィルハーモニー交響楽団
［専門］オーケストラ, 室内楽, ソロ
［今後の目標］ソロ、室内楽の活動を充実させる
［経歴］1996年第65回日本音楽コンクールトランペット部門第2位・特別賞、第13回日本管打楽器コンクールトランペット部門第2位。1997年東京フィルハーモニー交響楽団に入団、2004年より首席トランペット奏者を務める。2000～2001年アフィニス文化財団の助成を受けハンブルクに留学。トランペットを野間裕史、北村源三、杉木峯夫、福田善亮、マティアス・ヘフスに師事。侍BRASS、BRASS HEXAGON、東京トランペットカルテット、T-Brossのメンバー。

辻本 玲　つじもと・れい

チェリスト

［生年月日］1982年（昭和57年）
［学歴］東京藝術大学音楽学部器楽科〔2006年〕卒, シベリウス・アカデミー〔2010年〕卒, ベルン芸術大学〔2012年〕卒　［師］メタ・ワッツ, オーランド・コール, 川元適益, 上村昇, 山崎伸子, アルト・ノラス, アントニオ・メネセス　［受賞歴］日本音楽コンクールチェロ部門第2位・聴衆賞（第72回）〔2003年〕, 青山音楽賞（新人賞,2007年度）, ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位（第2回）〔2009年〕　［連絡先］インタースペース
［専門］クラシック音楽
［経歴］7歳よりチェロを始める。11歳まで米国フィラデルフィアで過ごし、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業（アカンサス音楽賞受賞）。2003年第72回日本音楽コンクールチェロ部門第2位、併せて聴衆賞を受賞。2007年度青山音楽賞新人賞受賞。2006年、2007年、ヴァイオリニスト五嶋みどりが主催するCommunity Engagement Programに参加し、世界各地で共演。五嶋みどりより「彼の演奏は、その音色が自然体でのびのびしており、音楽の大切な要素であるLOVEが伝わっ

米澤 傑 よねざわ・すぐる

医学者, 声楽家(テノール)　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授

［生年月日］1950年(昭和25年)1月29日

［本名］米澤傑　［出生地］徳島県鳴門市　［学歴］鹿児島大学医学部医学科卒, 鹿児島大学大学院医学研究科外科系(泌尿器科学)専攻博士課程修了　［学位］医学博士　［師］板橋勝, ジェームズ・シュワバッカー(サンフランシスコ), 松本美和子　［受賞歴］日伊コンコルソ入選, 日本クラシック音楽コンクール第1位グランプリ, 太陽コンコルソ・カンツォーネ・イタリアーナ優勝, 鹿児島県芸術文化奨励賞(1998年度), 日本病理学会学術研究賞(A演説,1996年度), 児玉記念基礎医学研究助成基金「優秀論文顕彰」(1997年度), 日本病理学賞(宿題報告,2010年度), 高松宮妃癌研究基金研究助成金(2011年度)　［所属団体］日本病理学会, 日本癌学会, 日本組織細胞化学会, 米国癌学会

［連絡先］鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 人体がん病理学

［専門］人体病理学, 声楽のコンサート, オペラ

［興味］ヒト癌におけるムチン抗原の発現, 真のベルカント唱法

［音楽を始めた動機］中学3年生の時に、音楽の先生(堺可臣氏)にすすめられて

［プロを志したきっかけ］プロではないが、プロの音楽家と共演する機会が多い

［初めて買ったレコード・CD］ジュゼッペ・ディ・ステファーノ「オペラアリア集」

［好きなレコード・CD］特になし

［印象に残るコンサート］特になし

［生涯の一曲］トゥーランドット「誰も寝てはならぬ」―イタリアと日本で「トゥーランドット」のカラフ王子を演じて大好評であったから

［印象に残る人物、目標とする演奏家］井上道義、松本美和子―人柄の素晴らしさ

［得意とする曲］トゥーランドット「誰も寝てはならぬ」

［今後の目標］70歳台になっても「誰も寝てはならぬ」を原調で歌えること

［後進への一言］真実(本物)を求め続けること

［代表作品］CD「米澤傑 テノールコンサート」(ピアノ：米澤悦子他,1991～1992年のライブ録音), CD「米澤傑 テノールの魅力」(2001年6月, ピアノ：久邇之宣,2002年1月日本・ルーマニア国交100周年記念ニューイヤーコンサート, 指揮：尾崎晋也・ルーマニア国立トゥルグムレシュ交響楽団, ライブ録音), CD「誰も寝てはならぬ/米澤傑 テノール・オペラアリア集」(G.ステーファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団,2004年5月ソフィア・ブルガリアホールにて収録, インターネット検索：「楽天市場 米澤傑」), DVD藤沢市民オペラ「トゥーランドット」(2005年11月, ベリオ版・日本初演, 全3幕, 総監督：畑中良輔, 指揮：若杉弘, 演出：栗山昌良, カラフ王子：米澤傑, インターネット検索：「楽天市場 米澤傑」)

［経歴］鹿児島大学医学部卒業、同学部教授。松本美和子他に師事。日伊コンコルソ入選、日本クラシック音楽コンクール第1位グランプリ、太陽コンコルソ・カンツォーネ・イタリアーナ優勝。1998年度鹿児島県芸術文化奨励賞。「蝶々夫人」や「カルメン」の主役、「第九」、「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」、NHKテレビ「第九をうたおう」(井上道義指揮)等のソリスト。2002年ルーマニアで“最高のテノール”、2004年東京紀尾井ホールで“マリオ・デル・モナコの声を持つ医学部教授”と大きな話題になる。2004年と2005年東京芸術劇場でのイタリアの世界的テノールとの共演、2005年イタリア(G.プロイエッティ指揮)と日本(若杉弘指揮, ベリオ版日本初演)での「トゥーランドット」のカラフ王子で大絶賛を博す。2006年NHK芸術劇場「二つの顔を持つ音楽家」、2007年国民文化祭「第九」、2008年徳島県民文化祭(秋山和慶指揮)、メンデルスゾーン「最初のワルプルギスの夜」(G.ボッセ指揮, オーチャードホール)、2009年NHK「ラジオ深夜便」の「ないとエッセー」等に出演。2010年京都会館開館50周年記念「第九」(指揮：井上道義・京都市交響楽団)やオーケストラ・アンサンブル金沢の「第九」(指揮：井上道義, 大阪ザ・シンフォニーホール)でのソリスト等に出演。2011年のNHK「ラジオ深夜便」“新春・クラシックを楽しむ”の「天は二物を与える」、2012年のNHK「ラジオ深夜便」“明日へのことば”でも大きな話題となる。2011年大阪・中之島国際音楽祭の「3大テノール」、2012年「日本病理医フィルハーモニーコンサート第1回演奏会」横浜みなとみらい大ホールで絶賛される。同年9月にはモーツァルト「レクイエム」(サントリーホール)のソリストを務める。2010年の第99回日本病理学会総会において、病理学会で最も名誉ある“日本病理学賞”を受賞し、宿題報告講演「ムチン：ヒト癌における臨床病理学的意義と遺伝子発現機構の解明から腫瘍悪性度早期診断システムの構築まで」を行い、高い評価を得た。2004年10月にリリースされたCD「誰も寝てはならぬ/米澤傑 テノール・オペラアリア集」(G.ステーファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団)は、タワーレコードJ-CLASSICALウイークリーチャートで計4回第1位に輝き、2009年7月には話題のピアニスト・辻井伸行のCDを抜いて第1位を獲得、鹿児島・十字屋CD週刊ランキングの「洋楽アルバム」部門でも第1位となる。